

国際経営研究所の研究プロジェクトについて

七 田 基 弘

神奈川大学国際経営研究所は、神奈川大学経営学部の開設を支える組織として、設けられた部局である。当初は、神奈川大学の新経営学部の採用予定の教員を受入れ、その教員に研究の場を提供するとともに、学部の開設準備の円滑な実施を図るものであった。その後経営学部の発足とともに、当然に後者の目的は達成し、完了したが、前者の目的は学部の完成まで引き続き残った。さらに、伝統的な学部における教育と研究のあり方の反省の上に、筑波大学の例に見られるような教育の組織と研究の組織を分離する動きが、諸外国でも、わが国でも強まっており、本研究所でも、引き続き、学部の範囲では行えないような研究の場を提供することとしている。

このようにして、国際経営研究所は創立以来五年を経過して、創成期から、いよいよ本格的な充実の時期に入ることになる。この七年間に、国際経営研究所では、それぞれ括弧内に揚げたスタッフを代表者として ①オセアニア研究（丹野勲）、②グローバル（日本企業の経営現地化戦略）（佐久間賢）、③HRM・「人的資源管理」（海老澤栄一）、④国際会計（柳田仁）、⑤教職研究（鈴木そよ子）、⑥経営のグローバル化（衣笠洋輔）、⑦STS²（科学、技術と社会）（中山茂）、⑧VAC³（付加価値キャンパス）（加藤薫）、⑨地域研究（加藤薫）、⑩美術と文化（加藤薫）、⑪東南アジア・華僑・中国（水谷雅一）という現在まで十一に及ぶ研究プロジェクトを実施してきた。これらの研究は研究のグループを中心に行われており、その研究態様は多様である。しかし、国際経営研究所が研究者に自由な共同研究の場を与え、経営学部の教育に対しても大きな貢献をしてきたことを否むことはできない。今後とも、研究については、研究所と学部という二つの部局の関係を捉えて、どう発展させ

ていくかということを考えることが重要である。学部は、伝統的な高等教育に係る教育と研究のための組織であり、研究所は大学院レベルでの研究も含めて、研究のための共同の場を提供するものであるということがいえる。このように考えれば、研究所の構成員は学部の構成員に限られるべきではない。学部外、学外の研究者も含めて、自由な、かつ発展性のある研究体制を確立することに努める必要がある。

研究所は必ず研究の衰退期に入る。かつて栄光の絶頂にあった研究所もその経験をしてきたし、これからも、その傾向は変わらないと思う。研究所の活動力を維持し、向上させるためには、外部からの批判を率直に受け入れるとともに、その構成員の不断の努力と研究者個人の絶え間のない自己点検が必要である。学部には未だ学生という批判勢力がありうるわけであるから良いが、研究には、良い意味での批判者が少ない。とくにアカデミズムの内部で相互に擁護し、傷をなめ合うことになる危険性が少なくない。ここに研究が陳腐化する危険性が生じてくる。

このような観点から、「国際経営フォーラム」においても、今まで実施してきた各研究プロジェクトの中間報告ないし最終成果と経営学部における教育改革への挑戦を特集し、一般の批判にさらすこととした。以下には、これらの中間報告ないし最終成果を特集Ⅰとして、教育改革への挑戦を特集Ⅱとして紹介する。しかし、プロジェクトの報告の中には、研究プロジェクト報告の分類で取り上げないで、論文あるいは研究ノートとして取り上げる方が適当と考えられたものがあり、これらは、こちらの方で取り上げることとした。論文としては、経営のグローバル化（海老澤栄一）、事例研究としては、経営資源としての人的資源（海老澤栄一）、人的資源会計研究の現状と課題（照屋行雄）、高等学校経営システムの多様化・弾力化の動向（奈須正裕）がそれである。また、本研究所のプロジェクトの中間報告は本号において取り上げたものに限られない。前号において取り上げた一九九一年度の神奈川大学国際経営研究所STSセンターの活動報告（常石敬一）、HRM（Human Resource Management）研究活動報告（海老澤栄一）があり、特集や論文、事例報告または研究ノートの分類で取り上げられているものもある。第三号で取り上げられたオーストラリア・経営・文化・社会の特集も、この一環であり、前号で論文として取り上げた商業高等学校の教育課程（一）（鈴木そよ子）もそうである。それぞれの研究プロジェクトの全体を理解していただくためには、これらの文献も参照して欲しい。国際経営研究所プロジェクト

トについて、学内、学外からの活発なご論議とご批判、忌憚のないご意見を期待するところである。

(しちだ・もとひろ／経営学部教授)

- 注
1. Human Resource Management;
 2. Science, Technology and Society;
 3. Value Added Campus;